

PART 3

HIDライトで
明るさ3倍!
パッと見旧車!

人気のブタ目に CAROLのヘッドライトを使って HIDキットを装着する



作業を行うのは吉野先生の愛車。なんとブタ目のマークIIの北米モデル「クレシーダ」。2.6リッター4Mエンジンを搭載するため、キビキビ走るのが魅力だ。クルマの紹介は改めて誌面にてお届けする予定。

H4が使用でき、簡単に入手できるマツダ・キャロル用ライトをゲット。これに錆びた古いCIBIEのレンズのみを合体したハイブリッドだ。

HIDキットの中でもH4に超コンパクトなデュアルバーナー方式を採用した。巻で従来のCRUIZE HIDをチョイスした。色はもちろん3500KのCLASSIC WHITEで決まり。

本日の特別講師

吉野先生



過去にステップパンやライフに乗り、他にもフェローバギーやワンオフのミラバギーを所有している吉野さん。今から11年ほど前に、このクレシーダを米国より購入。自分の手で全バラにすることも可能というほど、ブタ目を知りつくした人物である。

講師プロフィール

大輔レーシング代表 大輔先パイ

某VW専門誌では、カメラマン兼テクニカルライター兼編集者として多忙な日々を送る。愛車の'66年型VWタイプ3バリエーションは、自ら組んだボルシエ914エンジンや6ポットのキャリパーを装着して酷使中。足元にはTE37を履き、VWファンから大ブーイングの掟破りぶりだが、フルボリッシュ時にJWLマークを削って車検に受からなくなった2児の父。



夜のドライブのお供に、暗がりでの快適なナンパに、前の車の威嚇にと、最近HIDはクルマのマストアイテムとして着実に定着している。もちろん純正装着率も非常に高いそうだが、本誌読者の愛車へのHID装着率はまだまだ低いはず。その理由はおそらくこうだ。「やっぱり古いクルマに青い光はちょっとね〜」とか「おれは硬派だからナンパなんてしねーよ」とかね。

そんな人にオススメなのが、ハートネット社のCRUIZE HIDキット(ちょっとテレビショッピング風……)。ハロゲンライトと同じ3500Kという色味で光るHIDや、Hi/Loデュアルバーナー方式を採用した同社のキットを、千葉在住の吉野先生がトヨタ・クレシーダに装着。さらにひとひねりしてキャロルのヘッドライトボディと古いCIBIEのヘッドライトレンズをニコイチして製作したスペシャルヘッドライトボディを使ってインストール。ヘッドライトのガラス面がラウンドしているピンテーゼな雰囲気と、最新の明るいヘッドライトの両立をする必殺技なのだ。

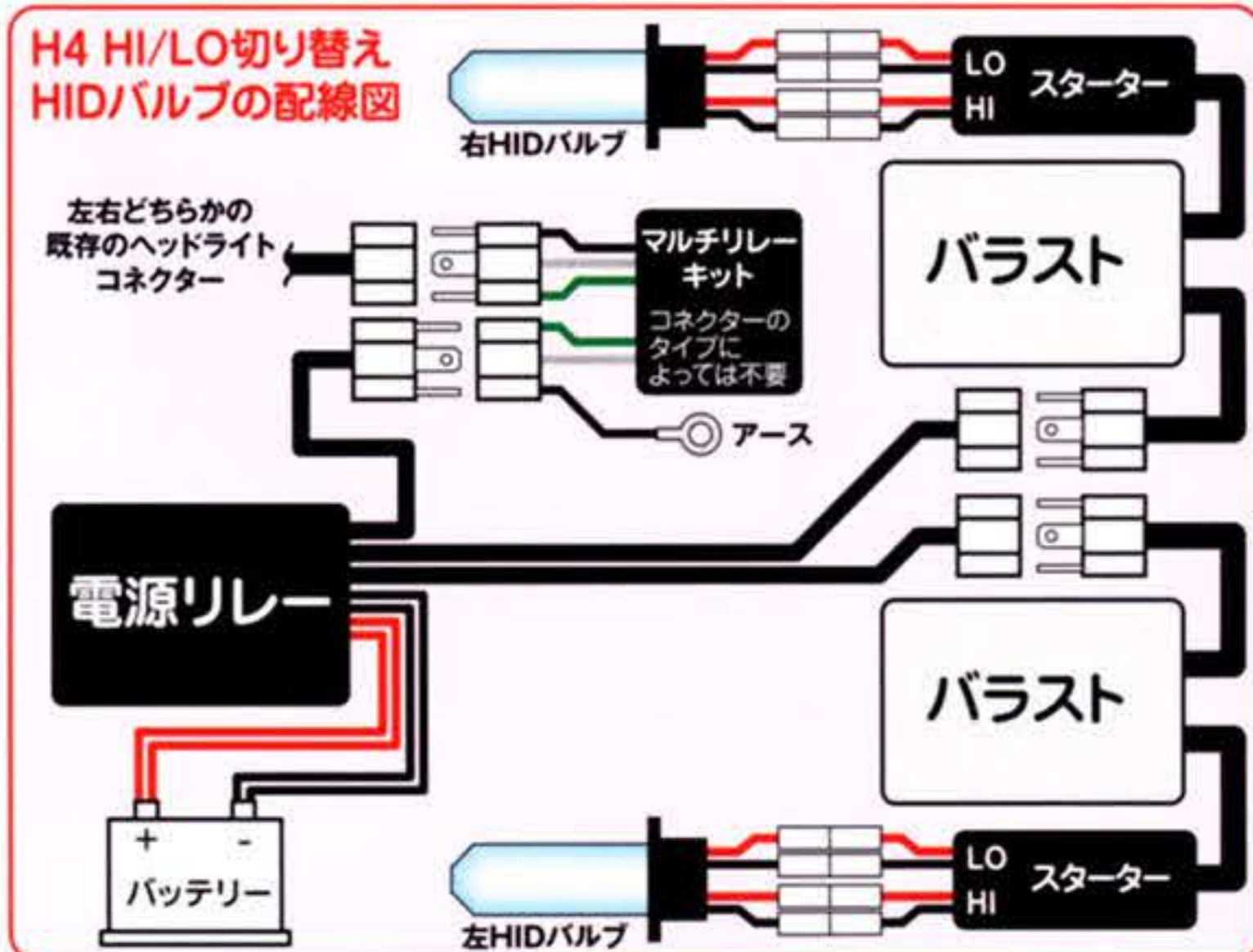
取材協力=ハートネット 0570-06-4147 www.heartnet.info

旧車は雰囲気か命! 旧車らしさを失わないアップデート秘技

●CRUIZEのH4デュアルバーナーHIDはこうなっている

旧車のヘッドライトでおなじみのH4バルブは、同じバルブにハイビームとロービームを組み込んだコンパクト設計のポピュラーな形状。これをHIDで実現するのは非常に難しく、これまで、ひとつのHID発光体を、ステップモーターやソレノイドを使って移動させることで、Hi/Lo切り替えを行うのが一般的だった。ところがCRUIZEブランドのデュアルバーナー方式は全く異なり、「毎回動かすの面倒だから、最初からふたつ組み込むべ」という発想。2つの発光体を備えることでモーターが不要となり、ハロゲンバルブ並みの小型化を実現した、目からウロコの次世代型HIDなのだ。

とはいえ、それだけならおれが取り上げるまでもない。読者の中には「HIDの青白い光が好き!」という人が多いと思うが、CRUIZE HIDの真骨頂は、その色だ。CRUIZEでは、従来の電球の色に非常に近い、色温度3500K(ケルビン)のバーナーを開発し、旧車に装着しても違和感のない色の光を再現してしまった。その名もCLASSIC WHITE! これなら単純に光量が増えただけで、パッと見HIDとはわからない。しかも消費電力も大幅に少なくなるんだから、まさに旧車にピッタリのHIDキットといえるのだ。



旧車へのHID装着はこれが鉄則 その1 ボディの加工をしないで取り付ける

おそろく一番気になるのがクルマへの加工だろう。CRUIZE HIDキットは、基本的に純正のカプラーから信号も電源も取れる設計で、配線の加工は不要。さらに今回は吉野先生のこだわりで、本体の設置も一切穴空け加工なしでの取り付けにチャレンジしてみた。特に古いクルマの場合は、他グレードモデル用に余計なボルト穴が空いていたり、ボディ各部にハーネスを通すためのメンテナンスホールが意外に空いているもの。これを上手く活用しよう。

旧車へのHID装着はこれが鉄則 その2 旧車に優しい方法で取り付ける

そもそもHIDの消費電力は、通常のハロゲンバルブの55Wに対して、たったの35W。発電量の少ない旧車には優しいシステムなのだ。しかしHIDの最大の難点は、点灯時に一気に電力を消費するという点。HIDをこまめに点けたり消したりしない本当の理由はそこにある。つまり点灯の瞬間だけはスイッチなどにこれまで以上の電流が流れてしまうのだ。そこでCRUIZE HIDでは、バッテリーから電力を直接供給するリレーキットをオプション設定。スイッチや純正リレーの損傷を防止できる。

旧車へのHID装着はこれが鉄則 その3 旧車感を損なわずに取り付ける

もうひとつのこだわりは旧車感の維持! これ高速有鉛読者にはかなり重要でしょ? まず年式にもよるけどヘッドライトの形状。H4が入る丸目2灯のボディは、レンズ面がラウンドしている物が少ない。そこで今回はキャロルのヘッドライトボディを使用しつつ、レンズはCIBIEを流用したものを使用。外観からはHIDだと全くわからない。さらにCRUIZEの豊富な色温度設定のなかから、ハロゲンバルブの色味に一番近いCLASSIC WHITEをチョイスして色味も旧車感をキープ。

●高速有鉛ならではのマニアックなインストール

